

予 算 審 査 特 別 委 員 会
令和 7 年 3 月 11 日（火）
午前 9 時 28 分開議

委員定数 7 名

出席委員 7 名

田中	博晃	土井裕美子
板橋	真弓	岡本 喜好
阪本	久代	垣内 憲一
南出	昌彦	

他に 議長	森下 伸吾	副議長	岡本 安弘
-------	-------	-----	-------

会議に付した事件

1. 議案第 10 号 令和 7 年度橋本市一般会計予算について
2. 議案第 11 号 令和 7 年度橋本市国民健康保険特別会計予算について
3. 議案第 12 号 令和 7 年度橋本市駐車場事業特別会計予算について
4. 議案第 13 号 令和 7 年度橋本市墓園事業特別会計予算について
5. 議案第 14 号 令和 7 年度橋本市介護保険特別会計予算について
6. 議案第 15 号 令和 7 年度橋本市後期高齢者医療特別会計予算について
7. 議案第 16 号 令和 7 年度橋本市工業団地造成事業特別会計予算について
8. 議案第 17 号 令和 7 年度橋本市水道事業会計予算について
9. 議案第 18 号 令和 7 年度橋本市下水道事業会計予算について
10. 議案第 19 号 令和 7 年度橋本市病院事業会計予算について

説 明 員

市 長	平木 哲朗	副 市 長	小原 秀紀
病院事業管理者	古川 健一	危機管理監	大岡 久子
総合政策部長	井上 稔章	政策企画課長	辻本 真吾
総 務 部 長	中岡 勝則	財 政 課 長	三嶋 信史
経済推進部長	三浦 康広	建 設 部 長	西前 克彦
水道経営室長	寺田 嘉文	健康福祉部長	久保 雅裕
病院事務局長	池之内正行	経営管理課長	岡村 恵介
監査事務局長	岩坪 恭子		

その他関係職員

職務のため出席した者

議会事務局長
議事調査係長

福井 直記
中井 ユリ

事務局次長

笹山

奨

(午前9時28分 開議)

○委員長(田中博晃君) ただ今の出席委員は7人で全員であります。

これより、令和7年度予算審査特別委員会を開きます。

本日の審査は、まず初めに、議案第19号 病院事業会計予算、次に、議案第17号 水道事業会計予算、最後に、議案第18号 下水道事業会計予算の順で行います。

それでは、これより審査に入ります。

1 議案第19号 令和7年度橋本市病院事業会計予算について

○委員長(田中博晃君) 議案第19号 令和7年度橋本市病院事業会計予算についてを議題といたします。

これより質疑を行います。全般について行います。質疑ありませんか。

阪本委員。

○委員(阪本久代君) おはようございます。566ページの院内保育業務委託料なんですけども、この4月からリニューアルオープンするというので、この院内保育所はどこに委託されるんでしょうか。

○委員長(田中博晃君) 市民病院職員課長。

○病院職員課長(野口朋弘君) 委託業者さまですが、キッズコーポレーションさまになります。場所は既存のキッズルームの同じ場所になります。

○委員長(田中博晃君) 阪本委員。

○委員(阪本久代君) 今まで直営で保育はされてたと思うんですけども、体制的には変わらないんでしょうか。

○委員長(田中博晃君) 市民病院職員課長。

○病院職員課長(野口朋弘君) 体制につきましては、そのキッズコーポレーションさまの社員さまが、対応していただくことになるんですけども、概ね既存の保育士さんが引き継がれて、すべてではないですけども、対応していただく形になりまして運営は、キッズコーポレーションさまに委託という形になっております。

○委員長(田中博晃君) ほかにありませんか。

阪本委員。

○委員(阪本久代君) 570ページの医業外費用のところで一時借入金利息が350万円。

これはどこに幾ら借りて、幾らの利息なんですか。

○委員長(田中博晃君) 経営管理課長。

○病院経営管理課長(岡村恵介君) おただしの件についてお答えさせていただきます。一時管理に関しましては、水道事業の方から、予定では7億円の借り入れの方を計画しておりまして、利率に関しては2%という部分で計算させていただいた金額となっております。以上です。

○委員長(田中博晃君) ほかにありませんか。

阪本委員。

○委員(阪本久代君) 576ページの手数料のところで、オンライン資格確認システム閉域網利用料とえがおでシリーズクラウド化に伴う利用料っていうのは、これは初めてじゃないかと思うんですけども、このどういうものなのか説明をお願いします。

○委員長(田中博晃君) 訪問看護事務長。

○訪問看護事務長(坂本安弘君) お答えをいたします。

まず閉域網利用料でございますけども。

令和6年度において、健康保険証のマイナンバーに伴うオンライン資格の確認について、電子化させていただくことになりました。パソコンそれからカードを読み取るスマホ等を購入、これは国の補助金で10分の10で買わしていただいたんですけども、それだけにしか使わない。オンライン資格の確認及びレセプトのオンライン請求だけにしか使わないということで、平均もよそのどのなんというんですかね。システムなり云々入らない。そういう、網を作ってしまうための利用料ということになります。

それから、えがおでシリーズのクラウド化に伴う利用料でございますけども。もともとカーネルという業者で5年間の権利つきで、システムを購入して、運用を訪問看護のシステムとそれから居宅介護システムの処理運用をさせていただいておったんですけども、新

しく今年度の5月から、その5年間の契約が切れて、新契約に移行するわけなんですけども、カーネルの方から提案がありまして、クラウド化することによっていろんなメリットがあるわけなんですけども、例えば新しいシステムができた、それから、いろんな手続きがすべて向こうの業者の方で、インターネットを通じて返してやっていただけだと、今まではこちらの手作業で作業をおったのが、そういったことがなしにオンライン化ですべてカーネルの側でやっていただけるということになります。それから、5年間の権利つきの権利を購入しておりましたので、それに対する保守費用が発生しておったんですけども、この補修費用も必要がなくなるということで、今回このオンライン化を進めたいということで予算化をさせていただきました。

以上です。

○委員長（田中博晃君）経営管理課長。

○病院経営管理課長（岡村恵介君）すみません。申し訳ございません。先ほどの阪本議員のお質しの件で一時借入金の利息の部分ですが、ごめんなさい申し訳ございません私利率の方を2%と申し上げてしまいましたが、申し訳ございません。正しくは0.5%でございます。訂正のほうよろしくをお願いします。あと、すみません。説明書類のあと554ページの部分をちょっとご確認いただきたいんですけども。そちらの中段の部分になります。2自己負担金収入、327万6,000円という部分があるんですけども、こちらの部分の説明なんですけど、利用者数と、1人当たりの収入の部分が、ちょっとテレコで入れ替わってしまっております。正しくは、利用者数が780人、利用者1人当たりの収入が4,200円というものが正しい数字になっております。お詫びいたします訂正のほうよろしくをお願いします。

○委員長（田中博晃君）皆さん大丈夫ですか。

ほか質問ございませんか。

板橋委員。

○委員（板橋真弓君）580ページの建設改良費のところの病院用の備品購入費が、昨年度と比べて1億6,000万ほど上がってるんですけども。これは何を、この内訳は何を購入されるんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）経営管理課長。

○病院経営管理課長（岡村恵介君）内訳のほうを申し上げます。少々お待ちください。

購入するものに関しましては、核医学装置という装置の方でこちらの方が金額が6,050万、内視鏡透視装置の方が5,170万、あとCTのパノラマ装置の方が2,330万、その他に今年度から遠隔ICUの装置の導入に関する部分で2,600万。その他毎年恒例というかですね、毎年医療機器の分で7,000万の予算を確保させていただいております。トータルで以上の金額となります。

○委員長（田中博晃君）板橋委員。

○委員（板橋真弓君）それに多分、その補助金かなとは思うんですけども前の578ページの国県補助金っていうのが、昨年度なかったんですけど。これが1,960万っていうのがありまして、これがそこに入ってるということでしょう。

○委員長（田中博晃君）経営管理課長。

○病院経営管理課長（岡村恵介君）議員お質しの通りでございます遠隔ICUに関する投資に対する部分の補助金として、トータルで1,960万3,000円の補助金の方を計上させていただいております。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

阪本委員。

○委員（阪本久代君）558ページのこの給料のところなんですけれども、人数はずっと書いてあるんですけど、看護師さんでいえば185人と、これは予算上のことだと思うんですけども、これだけの人数は確保できてますでしょうか。4月から。

○委員長（田中博晃君）市民病院職員課長。

○病院職員課長（野口朋弘君）看護師数ですが、現在、令和7年4月段階での予定で192名の看護師数を確保しております。

○委員長（田中博晃君）阪本委員。

○委員（阪本久代君）そうしましたらここに書いてあるよりも、たくさんの看護師さんが確保できてるということだと思うんですけど、私が12月議会かどこかの議会で、7対1看護を目指すって言うことが言われてたと思うんですが、今回の文教に出されてるのではその7対1っていうのが全然出てきてなくて、10対1でいくっていうふうに、全部読んだわけじゃないですけど、書いてあったと思うんです。その辺の方向としてはどういうふうに考えておられるんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）ただ今のただし7対1にということのお話ですけども、現時点で今日現在で大体患者数の方が246名、稼働病床の方が250に対して246名入っております。それで7対1に行くに当たりましては、仮にこの246名でいくとなると、全然足りないというふうな形になってきます。で、方向性として、その7対1ということに関しましては、もう常々、病院の目標としてこれまでも掲げてきたところでございますので、何とか早い段階で実現できればというふうには考えておるんですけども。ここの点に関しまして非常に看護師の数と、それと患者さんの数、それと重症度医療看護必要度こちらの方の数字この3つが、大きく関係する数値として注視していかないといけないところになりますのでこの辺を今後コントロールしながら、どの段階で移行できるのかというところをしっかりと見極めていきたいと思っております。2026年に診療報酬改定がございますのでそういったところで今後どういうふうな形で国の方が改正してくるかというふうなところも、見極めていく必要があると思っておりますので、先々週ぐらいですかね。看護学校の方に就職説明会の方も行ってくれたんですけども、過去最高の訪問者数ということで、かなり市民病院の方に関心を持っていたという看護学生の方も増えてきているというふうなところでございますそういったところで来年度末の退職者数の把握をこれか

ら看護部の方で行っていくというふうな形になりますので、その辺りがきちんと数字の方がある程度固まった段階で、来年度の採用人数の方とその7対1に向けてあと何人必要なのかというところをしっかりと分析した中で、また改めて議会のほうに報告するなりしていきたいというふうに思いますのでよろしくお願いたします。

○委員長（田中博晃君）阪本委員。

○委員（阪本久代君）それと、この予算は人事院勧告の実施見送った予算ということだと思うんですけど、見送りっていうのは、いつまで続くのかとか、解消の見込みっていうか、その辺はいかがですか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）今後の見通しにつきましては、病院の経営状況によるものというふうな形になってきますので、令和7年度の人事院勧告を実施できるのかどうかというところに関しまして、令和7年度中に検討をした上で組合等との話し合いも必要になってきますので、そういったところを、できるだけ早い段階から情報共有、病院全体に周知しながら、協力を求めてしっかりと建て直しのほうに努めていきたいというふうに考えております。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

板橋委員。

○委員（板橋真弓君）568 ページの下の方の3つですね、ダッシュボード利用料1320万とクレープ性の検査109万。財務会計システム利用料も、昨年度はなかったものでこれについて説明してください。

○委員長（田中博晃君）病院経営管理課長補佐。

○病院経営管理課長補佐（名村 隆君）今のおただしについてお答えいたします。

ダッシュボード利用料というのはですね医事のシステムの統計分析に使う部分の経営のサポートをしていただく形のシステムになっております。オートクレープ性能検査というのはですね医療機器の滅菌に使うもので、毎年じゃないんですけども、定期的に検査をしていかないといけないというのがありますの

でその、使用料になります。あと財務会計システム利用料というのは今、同課で使わせていただいている財務会計のシステムがもうメンテナンスの保守も切れている状況です。その、更新費用になります。

以上になります。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。
岡本委員。

○委員（岡本喜好君）おはようございます。526 ページの収入の病院事業収益の予定額で79億7,500万円上げられてるんですけども、6月の補正の最後のところで、今期の年度末の最終的な既決予定額が777億9,800万、まだそれよりももうちょっと上に1億ちょっと乗っかってるんですかね。っていうことは、今年の売り上げよりもまだもうちょっと売り上げを見込んだ、最終的な予定を収入にされてるので、今年度と同レベルの運用をすると、これぐらいが見込めるかなということで、逆に言うともうマックス見込んでる額面を盛り込んで、その補正で上振れしましたっていうのがなかなかちょっと見込めないような状況になってるのかなっていうのに対して、支出っていうのはやっぱり85億6,900万円で、そもそも、収入マックスで見込んだ状態で赤字それもう、仕方がないんですけども、収入ってのは、支出ってのは結構上振れするじゃないですか。そう考えると赤字額がどんどん広がっていくことも予想されるかなと思ってるんですけどその辺の込み込み的なものっていうのは、どういうふうに見積もっておられるでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）まず、医療収益の部分でございますが、こちらの方に関しましては、今年度の決算見込み等も含めましてその辺を実績をもとに、昨年末から1月にかけて、今回の予算編成となっております。また、木曜日に部局、厚生建設委員会もございましてその中で来年度の事業計画の方の報告をさせていただくんですけども。来年度令和7年度の目標といたしまして、今現在の病床稼働数、この予

算編成するときは250床でのベースで考えていたんですけどそうするとかなり、今お質しのありましたように、目いっぱいのところでの予算編成と、収益の部分の編成というふうな形になるんですけども。何とか、院内でやりくりいたしまして4月から265床の運用に向けて、今現在調整しておるようなところでございます。

その中で病院としてこれまで大体、85%の稼働であれば、収支トントンぐらいというふうな形で見込んでおったところなんですけどもやはり人件費物価高騰等の影響もございまして85%では到底収支とんとんに持っていくことができないということで計画の中では90%これは病床が何割に稼働病床数が、ぐらいになったとしてもとにかく9割をベッドを埋めていくというところをしっかりと目標にした中で今後、いろいろな経過を立てていくというふうな形にしておりますそうすると大体今回予算の方で235床ぐらいというふうに見込んでおるんですけども、若干もしその部分の実現できるのであればもう少し収入の方は上振れする可能性もございます。ただ今の決算の246床というふうなお話もさせていただきましたがこれが年間通じてということになると、かなり大変なことになってきますので現場の方の負担もかなり大きくなってきます。看護師の確保というところもしっかり行っていないといけないところもございましてその辺のところ、全体的なバランスを見ながらしっかりと、今後経営の方をしていきたいというふうに思っております。

あと、次、費用の方支出のほうですねこちらの方に関しましても、先だってからコンサルさんの方の口ポータルを実施いたしまして、費用の削減に向けての取り組みをこれから本格化させていくような状況でございます。特に材料費ですね。材料費がかなり上がってきておりますので、こういったところにメスを入れて切り込んでいける部分があるのではないかとということで、我々がなかなか交渉段階でもう1歩踏み込めないところをコンサルさんのお力を借りながらその辺の方も含めて、しっかりとその部分削減の方に努めていき

たいというふうに考えておりますので何とか費用に関しましては、人件費に関しまして人勧一旦据え置きというふうな形をとらせていただいておりますので、人数の増減で多少の増減はあるかもわかりませんが、基本的な単価としては、大きくは上ぶれすることのないような形で、コスト管理の方やりながらあとは変動費の材料費のところをいかに抑えていくかということ、しっかりと取り組んでいきたいというふうに考えております。

○委員長（田中博晃君）岡本委員。

○委員（岡本喜好君）532 ページのキャッシュフローのところの未収金の増減額で5,580 万円ぐらい計上されてるんですけども。その見積りの根拠というか、未収、その回収の見込みのある未収金なのか。ちょっと難しいかなという見出勤なのか、ちょっと内容だけ教えてください。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）ちょっと細かな数字の方今、確認させておりますが、ここの部分に関しましては、月遅れの分で現年の部分が翌月に以降に入ってくるというところでの未収で、これ、金額がこれだけ膨らんでるというふうな状況になっております。

○委員長（田中博晃君）これ後程数字の方わかります。大体。

岡本議員は、その返ってくる当てのない、いわゆる滞納というな、その部分がどれぐらいのかという気にされてるんですけども。大体でもしわかるのであれば後程答弁いただければと思いますが、いかがですか。

経営管理課長。

○病院経営管理課長（岡村恵介君）先ほどの、こちらの未収金の増減の額のところになるんですけども、考え方としましては、令和6年度の年度末の未収金の額及び令和7年度の未収金の額、その差額の部分の増減という考え方で、この金額のほう出させていただいております。

令和7年度の見込みとしましては、9億8,200 万円のところに関しまして令和7年度で、1億飛んで3,800 万という形で、先ほど局長おっしゃられた月ずれの未収金というような部分を、直近の診療報酬の状況とかに合わせて加味させていただいた部分になりますので、議員お質しのような回収できないような、焦げつきの金額という部分で増えているというものではございません。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

南出委員。

○委員（南出昌彦君）おはようございます。550 ページの外来収益のところなんですけれども。年間の延べ患者数が、12 万5,840 人ということで、収益的にはさほど前年と変わらないですけども若干、比較してみますと、7 年度の方が、収益が少ないということなんですけど。従来から外来患者の対応ってということで、紹介状がなければ診察を受けれないというふうなことで、市民の方からもご意見いただくんですけども。この辺入院よりもボリューム的にはある小さいですけども、重要な収益になってると思うんですけど。これ何、何らかの改善っていうのも考えられてないんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）まず外来収益のところでのか、患者数の減少の部分なんですけども、まず紹介状がなければということのお質しなんですけども基本的に病院に関しては、応対義務がありますので来院されたら受診していただくということは原則はあるんですけども、ただ、国策としてやはり機能分化というのを図っていきましょうということが国の方で掲げられております。

まずは、かかりつけの先生、開業医を今の先生のところで、まず、診察をしていただいてその上で、検査入院が必要であれば、病院のほうに紹介していただくこの流れを作っていくそして退院してまた、開業の先生のところご紹介いただいた先生のところに返していくという、この流れを打っていかうとしてるわけなんです。

当院の方、市民病院ということで当院をかりつけにされてる患者さんももちろんいらっしゃいます。そういった方々もある程度症状安定してお薬だけを出させていただいているとか、そういった患者さんも多数いらっしゃいますので、できるだけそういった患者さんに関しましては、開業医の先生のところに、紹介逆紹介をさせていただいて、また、定期的な検診、検査等が必要であれば、当院の方にその時紹介していただくというふうな形で、今、させていただいておるところです。この背景にはもう1つ、医師の働き替えた改革というのもございます。どうしても医師に関しては、外来あります。それと入院患者を見る。外科に関しては、オペもありますそういったところで、うまく先生方を負担なく、できるだけ負担を軽減した中で、業務に携わっていただく必要がございますので、そういったところで、国の方も機能分化というふうなところで開業医との棲み分けですね、そういったところで取り組んでるところでございますので、少し管患者数としては減ってくると思います。

おそらく、在宅医療も、今後ますます増えてくると思いますのでそういったところで、外来の方は少なくなる。でも、検査等を実施することによってこの単価を上げて、全体としての外来収益を下げないというふうなことを病院としては取り組んでいきたいというふうに考えておりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（田中博晃君）南出委員。

○委員（南出昌彦君）収益を下げないということで、頑張っていたきたいと思えます。そしたら558ページの職員手当等のところなんですけども、管理職手当が令和6年度よりも、差がった予算で組んでられると思うんですけどこの辺はどういう理由からでしょう。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）さきの一般質問で管理者の方からの答弁さしていた部分に関連するんですけども、今回

管理者の給料報酬の方で、5%から10%削減ということでさせていただいてございます。その中で管理職手当につきましても、ちょっと調整中の部分もございますが、会社の方から答弁もありましたように、病院幹部の方の手当の方を一部カットしていくというところが今回予算の方に一部反映されているというところでございます。

○委員長（田中博晃君）南出委員。

○委員（南出昌彦君）職員さんの手当をカットするという説明でよろしいですか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）一般質問の管理者の答弁の中では、院長代理副院長、そして事務局長私あと看護部長、それと診療技術部長ということでお話をさせていただいたと思います。

○副委員長（土井裕美子君）委員長。

○委員長（田中博晃君）予算立てる段階でもう下げるのは決まっていたんですか。この間の一般質問とか、例えば管理者の一部削減とかはここに反映される。ていうのはおかしくないですか。予算的に。

○副委員長（土井裕美子君）答弁できますか。病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）順序としてはおっしゃるとおりだというふうに認識しております。もし、ここの部分が削減できなければというところの部分もございましてちょっと予算立てた後にはいい。反省しないといけないところかなというところで、はい。こちらの方ははいそういうふうに、はい。認識しております。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。岡本委員。

○委員（岡本喜好君）、すみません、関連でっていうことは、意思としては、意思って言うか、「will（ウィル）」の意思ですけどね。もう、年間を通じて当面の間ってやってましたけど、少なくとも1年間は、この間を続けるという意思をお持ちという認識でよろしいでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）そのとおりでございます。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。阪本委員。

○委員（阪本久代君）同じく 558 ページの地域手当なんですけれども、これは何%で計算されてるんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）経営管理課長。

○病院経営管理課長（岡村恵介君）地域手当のほうなんですけれども、5%で計算をさせていただいてます

以上です。

○委員長（田中博晃君）岡本委員。

○委員（岡本喜好君）568 ページの手数料の中の中段ぐらいですかね、看護師等紹介手数料 2,024 万円なんですけれども。

先ほど答弁にありました今、4 月段階で 192 名確保、看護師の方をされてるということなんですけども、この看護師紹介手数料であと何名。ここ。入れようという計画になってるんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）この看護師の紹介手数料、予算編成時点では、かなり看護師が少ないということでの見込みではあったんですけども。先ほど答弁させていただきましてようかなり病院の方への問い合わせ等も増えていると。4 月の段階で 192 名ということで、予算との比較の中でいけば、予算を上回る人数が確保できているというふうな形になりますので、できるだけこの紹介手数料の方は何とか使わずにいきたいなというふうに考えておりますもう最後の最後までとっておきたいなというふうな思いでございます。

○委員長（田中博晃君）岡本委員。

○委員（岡本喜好君）ちなみに教えていただきたいんですけどこれってのは、1 名紹介していただくと、お幾らというような感じの計算になるんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）大体 20% ぐらいね、想定年収の 20% ぐらいになります。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

南出委員。

○委員（南出昌彦君）547 ページの注記事項なんですけれども。引当金の取り崩しというところで、②の賞与引当金の取り崩しということなんですけども、期末勤勉手当 6 億 2,500 万ほどを支給するために、2 億ほど取り崩すということなんですけども。これは資金繰りってというか、なかなか苦しいということで、取り崩すんでしょうか、それとも例年、こういう流れでお金の流れでいってるんであまり、特別の支障をないということですか。

○委員長（田中博晃君）経営管理課長。

○病院経営管理課長（岡村恵介君）例年どおりの引当をやっているさせていただいておる部分で、当年度支給する分に関しては当年度で次年度にかかる部分がございますんで、こちらの部分に関しては、賞与引当金の方、計上して、計上したものをまた、取り崩していくという形になっております。

以上です。

○委員長（田中博晃君）南出委員。

○委員（南出昌彦君）532 ページなんですけども、キャッシュフローのところでは令和 6 年度では期末の残高が 6 億 2,200 万というふうな数字であったと思うんですけど。実際のところ令和 7 年度の期首の残高が 2 億 1,700 万ということなんですけども、この辺の金額のブレっていかずれっていうのは、どういうところから影響してるんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）経営管理課長。

○病院経営管理課長（岡村恵介君）今、議員おただしの部分は昨年のキャッシュフローの期末残高が 6 億ほどだったということの認識でよろしいでしょうか。

○委員長（田中博晃君）南出委員。

○委員（南出昌彦君）すみません。昨年というか令和 6 年度の予算のときですね、令和 6 年度です。

○委員長（田中博晃君）経営管理課長。

○病院経営管理課長（岡村恵介君）すみません。今年度の期首の、キャッシュフローがそのところが 2 億 2,000 万になっているという部分でその差額ということかと思います。

キャッシュフローに関しましてはまあよ予定キャッシュフローということなので、予算策定時の部分での歳入歳出予算でせよ用意させていただいてるものをベースに、積み上げたものとなっておりますで、そこからちょっとかえりがあるという部分に関しましては、実際のところ収益のところがちよっと目標に達しなかったであるとか、費用のところ、多くなっちゃった、そういったところの影響で、昨年度と今年度のところでの差額が出ているというふうに認識しております。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。
岡本委員。

○委員（岡本喜好君）566 ページの委託料の中の一番下ですかね、国際看護師あっせん業務 88 万円とあるんですけども。これはどういった性質のものなんですか。国際、外国の方を、雇用するための紹介手数料みたいなそういう認識でしょうか。

○委員長（田中博晃君）市民病院職員課長。

○病院職員課長（野口朋弘君）令和7年度の5月1日より、中国人看護師の方を2名採用にあたりまして、それにかかる費用となります。よろしくお願いします。

○委員長（田中博晃君）岡本委員。

○委員（岡本喜好君）これこういう方を採用するときに、あっせんしてきていただくんですけど、何か1年間は絶対、勤務してよとか、なんかそういうDUTYというか、そういうものってのはあるんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）市民病院職員課長。

○病院職員課長（野口朋弘君）この2名の中国人看護師さんの方を雇用するにあたって3年間の時間を設けております。

以上です。

○委員長（田中博晃君）岡本委員。

○委員（岡本喜好君）中国の方っていうことなんですけども、ご存じだと思うんですけど中国の方っていうのは、その本国から、当然、何か有事のときは、絶対本国のために働きなさいっていう。法律が適用される

ので、橋本なんですすごい小さな田舎なんですけど。

そういった橋本市の市民病院の言ったら、入院されてる方とかそういうデータに、さわるができる、ナースなので患者情報とかあるんですけども。そういったことも加味されて、なぜこの中国人の方を雇用されるのか、他の国籍の方ではない理由について教えてください。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）外国人看護師の採用に関しましては過去においても、4名の外国人看護師中国人看護師の方を採用してきたところなんです。ただコロナ等もございまして、帰国等が変わんかなわれないというふうな状況の中で徐々に退職されていってこれまで今年度末の時点ではゼロというふうな状況でございました。ただ国際化というふうな流れの中でやはりあと看護師不足ですねその部分をどう補っていくのかというところで外国の労働者の方に、いろいろと先進地の病院の方の事例とかも参考にさせていただきながらではあるんですけども、中国に関しましてはやはり漢字文化ということで、日本の国家試験の合格率の方が、他のフィリピンベトナム、ミャンマーそういったところ、EPAの諸外国と比較しても、断トツにずば抜けて合格率が高いというふうなところで、当院は中国の看護師の方を採用させていただいております。過去の4人の看護師に関しましても概ね1年から2年、日本語、もう流暢に話すような形になりますし、特に中国人だったからということで現場からの、大きなクレーム等は、過去にはございませんでした。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

南出委員。

○委員（南出昌彦君）令和7年度、企業債すみません。530 ページの令和7年度の企業債12億7,590万という、金額は予定額で入ってるんですけども。すみません。546 ページに移っていただいて、3番の予定の貸借対照表の関係で64億8,400万。のうち一般会計が負担すると見込まれる額は34億1,100万ということなんですけれども。これこういう借り

入れが増えてくると、非常に一般会計に与える影響も多いかと思うんですけども、これは12億7,500万も入っての償還合計額なんですか。借り入れて、後のトータルということでいいんですか。

○委員長（田中博晃君）経営管理課長。

○病院経営管理課長（岡村恵介君）先ほどの議員おのただしの方なんですけれども546ページの償還の部分に関しましては、今年度の借入の部分は含まれておりません。今年度借り入れた分の起債の償還というのが、次年度以降から発生するものになりますので、こちらの部分には、今年度借入の12億7,590万の部分は、反映しておりません。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。
岡本委員。

○委員（岡本喜好君）すみません。558ページのまた給与費で看護支給のところでですけど、先ほど説明では、4月時点で192名だったのが、7月にはプラス、最低中国の方が2名。増える。194名体制になる。という認識でよろしいですか。

それ以外に何かこう、今年度に、もう何月にな、何人か採用されるってのは決まっているようなお話があれば、お聞かせすし聞かしさせてください。

○委員長（田中博晃君）市民病院職員課長。

○病院職員課長（野口朋弘君）中国人看護師さんは5月1日の入職になりまして192名の中には含まれております。

現在、募集活動も果敢にさせていただいてまして、今確実に予定されているものはこれからの見通しになります。

以上です。

○委員長（田中博晃君）岡本委員。

○委員（岡本喜好君）すみません。4月。現在で192名っていうのは訂正で190名で、5月にあと2名増えて192名になる。そういうことでよろしいでしょうか。

○委員長（田中博晃君）市民病院職員課長。

○病院職員課長（野口朋弘君）そのとおりでございます。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

南出委員。

○委員（南出昌彦君）591ページの下から2つ目のロボット手術支援システム賃借料なんですけれども。前年度までの支払い額が5,654万5,000円ということなんですけど、令和7年度から8年度、非常に高額になってるんですけど、これちょっと知識がないもので、ちょっと説明をお願いします。

○委員長（田中博晃君）経営管理課長。

○病院経営管理課長（岡村恵介君）おただしのほうにお答えさせていただきます。

こちら、債務負担行為に関する調書の部分で、ロボット手術支援システム賃貸料こちらの「da Vinci Xi（ダ・ヴィンチ）」の賃貸料の方になります。議員お質しの部分が7年度から8年度ということなのでこちらが2か年、の部分での負担の部分になります。令和6年度が5,600万のところに対して、2ヵ年ということなので、年度、単年で見ると、ほぼ同額の金額という認識を持っております。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

岡本委員。

○委員（岡本喜好君）すみません。592ページの一番上の国際看護師あっせん委託料の前年度末までの支払い義務発生額176万円ってなるんですけども。

これは令和6年度にこの国際看護師、中国の方を別で雇ってはるということなんでしょうか。それとも何か前原駅みたいなのがあって、7月に新たに88万円をお支払いすることで、合計なんすかね250万円ぐらい払ってお2人の方をやっとうこういう仕組みになってるんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）この中国人看護師に関しましては、1年前に入国の方をしていただいてこちらの方のあっせん業者の方学校になるんです。学校の方で日本語と、あと、看護の方の勉強をやっていただくということで実際のところの支援ですね。

学生たちに対する支援の費用もここに含まれているというふうな形になります。

○委員長（田中博晃君）岡本委員。

○委員（岡本喜好君）すみません。ちょっと教えていただきたいんですけども、外国人の方にこういう支援って、必要なのかなと思うんですけども、逆にこの日本の方に、この看護師取りたいって言ってこんだけの何か支援の施策っていうのは、病院としてあるのでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）これも予算のほう取らせていただいておりますけれども、奨学金制度のほうございます。

○委員長（田中博晃君）ほか、いかがですか。

南出委員。

○委員（南出昌彦君）548 ページなんですけども。これも注記事項で、先ほど費用をできるだけ圧縮してというふうな説明もあったんですけども。もうこれ、この表の数字だけを見ても、営業収益から営業費を引いたら、14 億ほど中ということなんですけど。一番のこの原因は何なんでしょう。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）やはり物価高騰等の影響が、あと人件費ですね、これがすべてにおいて大きく影響してきているというふうなところになります。人件費に関しましてももちろん病院で直接雇用者正規職員会、会計年度任用職員もそうなんですけども、委託料の方に関しましても、ほぼ、人頭経費、人件費、になります。そういったところで、もう更新の時期にきて、プロポーザルで再入札をかける部分に関しましてはもう軒並み上がってきているというふうな状況でございます。物価の部分でいきますと材料費、お薬もそうですし、あと電気とか、燃料費、そういったところも、軒並み上がってきているというふうなところで、ですのですべてにおいて影響が出てきて、費用の方が上がってきているというふうな状況ですんで、委託費に関しましては、契約締結後も引き続き費用を削減できないかということで、事業者側の方に働きをかけ、協議の方をさせていただいており

まして、その中で、もし、こういったところの業務、病院さんの方でしていただけるのであれば、これだけ費用、削減できますよとかそういったところの協議も進めさせていただいてるところでございます。ただそうすると、当然現場の方での負担が、発生してくるような形になりますのでその部分、どれだけそれぞれが、効率的に業務をする中でそういった部分も吸収できるのかということ、現場の方と話しながら、今調整の方を進めているようなところなんです。

ただ、大きく委託料の方を何億という形での削減ができるのかということそういうわけでもございません。どれだけできるのかということ、これはコンサルも今回、選定しておりますので、そういったところのアドバイスもいただきながら今後また調整の方協議を進めていくということになります。

○委員長（田中博晃君）南出委員。

○委員（南出昌彦君）頑張ってください。お願いします。あとちょっと細かいところすみません 581 ページなんですけども。本年7 年度は前年度に比べて通勤手当が、270 万ほど下がってるんですけど、これ単純に職員さんが入れ替わって、費用がたまたま少なくなったという解釈でいいのでしょうか。

○委員長（田中博晃君）市民病院職員課長。

○病院職員課長（野口朋弘君）職員の構造変化等々によるものかと思います。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

板橋委員。

○委員（板橋真弓君）先ほどの岡本議員の質問に関連するんですけど、看護師さんの奨学金項目ってのはどこに載ってるのでしょうか。

○委員長（田中博晃君）経営管理課長。

○病院経営管理課長（岡村恵介君）説明書の579 ページ 580 ページの部分になります。投資の項目資本的支出の投資の項目の中のところの第2 項目看護師の奨学金といったところになっております。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

垣内委員。

○委員（垣内憲一君）先ほど南出議員の方から質問があった、営業損益がものすごい赤字っていうかそんなね、コンサルさんを入れるっていう話なんですけど。今までそういったそういう経費削減とかそういったことでね。考えたことなかったつつつたら、おかしいかわからんけど、今までそういったことはしなかったんですか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）過去においてして、してこなかったのかというのお話しなんですけど、全くしてこなかったわけではございません例えば一番っていいですか結構費用の大きいシステム関係。こういったところにメスを入れてまして何とか費用の方削減できないか。病院、電子カルテを初めとして、さまざまな、システムが入っておりますので保守費用も含めた中で、何とか費用削減できないかということで、コンサルの方、過去に入れた実績がございまして、で、結果といたしましては、かなり病院の方で頑張ってくれてるということで、本当にわずかな金額しか上がってこなかったというところでごまこの、辺のところのコンサルへの委託に関しましては、概ね成功報酬ということで、削減額に応じた何%という形で委託料のほう費支払うような契約をするようになっております。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。
南出委員。

○委員（南出昌彦君）579 ページの企業債償還元金なんですけども。本年度は8億8,100万ということなんですけど、これは前年度と比べても7,6,000万ほど。上積みされてると思うんですけど。今後の予測っていうのは、まだまだこの金額上がってくる予測をされてるんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）こちらの償還額に関しまして、まず病院の建物、医療機器に関しましては、計画的に返済していておりますので医療機器の更新に関しましてはできるだけ平準化で、年度ごとに

浮き沈みのないような形でというふうなことで考えて調整していっているところではございますが、来年度に関しては少し高額な医療機器が重なったというところで、予算の方、かなり大きく上げさせていただいているところではございます。ただ、先ほどのお話の中で12億云々というところのお話があったかと思えます。来年度に関しましてはこの部分で病院の運転資金の方がかなり厳しくなってくるというところで国の方の新たな事業を活用して、運転資金の方を、病院事業債というふうな形で、借りていく予定で今回予算を組まさせていただきます。これが病院、1年で何とか軌道修正してきちんと、立て直しが図れるというふうな見通しが立てば、当然何とか心の部分で据え置くような形で、調整していくような形にはなってくるんですけども。

やはり来年もまた変わらないといけないというふうな形になると、当然個々の企業債の返済の額が増えてくるというふうな形になってきます。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

阪本委員。

○委員（阪本久代君）すみません。先ほどコンサルのどうのこうののちゅう話あったんですけど、それは予算上はどこにあるんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）成功報酬なので、現時点ではまだ予算化しておりません。

○委員長（田中博晃君）阪本委員。

○委員（阪本久代君）そしたら別に頼むというその委託とかっていうその最初の方も別に要するに予算にはしなくてもいいという、よそ予算上、予算書上限っておかなくてもいいということです。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）どれだけの効果額が出てくるか見込めないで、これに関しましては補正対応で行かさせていただきたいと考えております。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

南出委員。

○委員（南出昌彦君）入院の収益については、昨年並みということであるんですけども。先ほど来から10対1から7対1の改善を早急に進めるということも、説明いただいてと思うんですけども。ここうがやっぱり大きいと思いますけども。何か、もう1つ何かこう、大きな柱となる改善策っていうのは考えられてないんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事業管理者。

○病院事業管理者（古川健一君）おっしゃるように、病院の収益の中で一番大きな比重を占めるのは入院収益ということになります。で、そのためには新規入院患者をとにかく獲得すると、いうことです。そのためにもうこの、去年の10月から院内で統一してやっていってますけれども。それについてご紹介します。

1つはうちの病院は、この地域の救急医療を中核になってます。

でもその中でも、救急患者がたくさん、集まってきて、見れないということで断り事例が結構あります。

だいたい25%30%ぐらいやっぱり救急車を断ってるという、そういうのがありますので、救急車の4割は入院に繋がりますので、それを減らすということで、あと働き方改革っていうのもありまして、今宿直医が内科医外科医産婦人科医3人が宿直してます。特に内科医は一晩に救急車平均3台見てます。でもそうすると、これは宿直とは言えない。こんだけ忙しいのは宿直じゃないということになります。

そこで、去年から、内科医いいですけども、遅出、いわゆる普通だって8時30分から出勤して、17時15分で退勤するんですけども。

出勤を、13時15分出勤で、退勤が10時ということで、17時以降、10時まで、いわゆる救急患者を診てもらおうとその間に、宿直医は休んでおいてもらう、ただ手が足りやんときは応援に行くということで、地宿直医の負担を取ると同時に、断り事例を減らすということで実際断り事例減ってます。

それによって、救急の入院患者も50%ぐらいは増えてます。はい。それが今の病床の高稼働に繋がってるというふうに思います。

で、4月からは、一応もう全課、今まではボランティアということで、参加してもらってたんですけども、全内科医が一応参加すると。いうことでそれをしていくというふうにして、いわゆる断り事例を減らして入院患者数を増やしていくというふうにしてます。それから、やっぱり病院の種収益では一番大きいのはやっぱり手術になりますんで、手術するには麻酔が必要になるんですけども。うちの病院麻酔科医が、長い間1人しかいませんでした。で、ようやく2人になったんです。

それでもやっぱり、手術の半分は自家麻酔、自分たちが麻酔かけてるという、そんな現状でした。だからどうしても、手術件数が頭打ちになると。で、4月から今現在働いてる麻酔科の先生が退職されます。また非常勤になって、手伝ってくれるということ2.5になりますので、麻酔科枠が増えるということで、手術件数を増やすことができるということになります。あと、今現在、他の県立医大泌尿器科の大原教授ですけども、来年4月からうちに赴任されます。ロボット手術、専門にされる先生のご指導を仰ぎながら、収穫につなげていって手術件数を増やしていこうというふうに思ってます。から、来年度再来年度からですけど、遠隔ICUということで、和歌山県立医大の方の指導を仰ぎながら、重症患者をうちの病院でも見れるような、形をとっていきますので、そういう意味で重症患者を増やして、いうふうなことで、患者数の増員を増やしてます。あと、在宅医療、特に施設の中で、体調不良者の患者さんっていうのが、病院の方に、救急で運ばれてくるんですけども。夜になって運ばれてくることが多い。

特に、8時9時、一番救急患者が多いときに、運ばれてくるんで、もう見れないということで断るケースが多いんです。そういうことで、もう施設の間にそういうふうな感じなんでもう昼間から、体調が悪いっていうことが出ますので、もうそういうのがあれば、もう病院の方にね、連絡してもらって、うちの内科

医がそれを見に行くで、早期に発見して治療して、早期に返すというふうなことを間も始めてます。そうすることによって地域医療の助けにもなるということで、地域に必要な医療を、確実に提供していくということで、入院患者を増やしていこうとします。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほか。

南出委員。

○委員（南出昌彦君）ありがとうございます。そうすれば、今お話いただいたいろんな創意工夫いただいた施策というか対策については、この549、550ページの年間の延べ患者数であるとかっていうのには含まれてないプラスアルファの部分という解釈でよろしいでしょうか。

○委員長（田中博晃君）病院事務局長。

○病院事務局長（池之内正行君）プラスアルファかどうかということに関してちょっとなかなかお答えするのが難しいところなんですけどもどうしてもこれから春先夏場にかけて患者さんの方が、季節性の部分もあって減って、例年減ってくるんですけどもな。

その辺のところを今管理者がおっしゃっていただいたような形で、新規入院患者であるとか、そういったところ手術件数も増やしながらということでいろいろ市民向けの講演会等も、今後計画しながらですね、しっかりと市民病院の方をアピールしていきたいなというふうに考えております。

○委員長（田中博晃君）南出委員。

○委員（南出昌彦君）本当に救急車の対応についても、断り入れてるのを受け入れるっていうことも含めまして、本当に、改善策かなと思いますんで。少しでもこの収益を上げるようによろしくお願いしたいと思います。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（田中博晃君）質疑がありませんので、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論する方ありませんか。

阪本委員。

○委員（阪本久代君）令和7年度橋本市病院事業会計予算に反対の立場で討論を行います。

いろいろと収益上がる努力をされているということは、今のお話でもよくわかったんですけども。今回の予算は累積赤字の席の職員にはないのに、人事院勧告を実施しない予算である。職場としての魅力がないと、看護師さんをはじめ、職員は集まりません。さらに経営を困難にするだけだと思います。人事院勧告の1日も早い実施を求めて、反対討論とします。

○委員長（田中博晃君）次に、賛成の立場で討論する方ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（田中博晃君）そのほか討論する方ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（田中博晃君）討論がありませんので、討論を終結いたします。

これより、議案第19号 令和7年度橋本市病院事業会計予算について 採決いたします。

本案は、原案のとおり可決すべきものと決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（田中博晃君）起立多数であります。

よって議案第19号は、原案のとおり可決すべきものと決しました。

○委員長（田中博晃君）この際、10時50分まで休憩いたします。

（午前10時37分休憩）

（午前0時49分再開）

○委員長（田中博晃君）休憩前に引き続き、会議を開きます。

2 議案第17号 令和7年度橋本市水道事業会計予算について

○委員長（田中博晃君）次に、議議案第17号 令和7年度橋本市水道事業会計予算について を議題といたします。

これより質疑を行います。全般について行います。質疑ありませんか。

阪本委員。

○委員（阪本久代君）451 ページの営業外収益のうち、他会計繰入金で、この貸付金利息が1,000 円になってるんですけど、先ほど病院の予算のときに、7 億円借りて350 万円利息として払うという予算が出てきてるんです。ここの整合性がどうなってるのかということと、それと436 ページのこれは令和7年4月1日から令和8年3月31日までって書いてありますので、この他会計貸付金による支出と収入が5 億円になってるんですけど、ここでも7 億円と一致してないし、この辺はどうなってるんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）水道経営室長。

○水道経営室長（寺田嘉文君）おただしにお答えいたします。

451 ページ貸付金利息なんですけど、これにつきましては、期間等を決めた上で、現在名目予算で計上してございます。補正予算で対応させていただきたいと思っております。437 ページにつきましても、補正によって対応させていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。
板橋委員。

○委員（板橋真弓君）461 ページの11 番委託料のところの経営戦略更新委託料っていうのが、1,221 万1,000 円になってるんですけどこれ新しいものですか。説明をお願いします。

○委員長（田中博晃君）水道経営室長。

○水道経営室長（寺田嘉文君）経営経営戦略子資金の委託料につきましては、現在、総務省の方から繰入金の要綱利用権に対し、なっております。現在の分につきましては、令和4年に見直しをしておりますけれども、今回、改めて見直しをかけるものでございます。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。
南出委員。

○委員（南出昌彦君）450 ページの予算説明書の給水収益なんですけども、前年度と比べて1,000 万減ということで誤差の範囲内かわかりませんが、やっぱり人口減少とか、そういう理由からなんですか。

○委員長（田中博晃君）水道経営室長。

○水道経営室長（寺田嘉文君）おっしゃるとおり、給水収益どんどん数が減っておりますその加減でございます。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。
水道経営室長。

○水道経営室長（寺田嘉文君）申し訳ございません。先ほど答弁させていただきました。一時借入金の部分なんですけれども、補正対応って話に、収入なんで補正対応ではございません。

申し訳ございません。

○委員長（田中博晃君）上下水道部長。

○上下水道部長（堤 健君）すみません。先ほどの利子の部分に関しましては、期間もきっちり決まっておりますし、最大7 億っちゃう話はしてますけども。その金額っちゃうのもかたまっておりますんで、ということもあって1,000 円のいわゆる見込みで、ポケットとして準備させていただくとるちゅうことで、お金が決まった時点で決算で報告というような形になってきます。というので補正予算対応ではないということです。

申し訳ございませんでした。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。
阪本委員。

○委員（阪本久代君）ちょっと待ってくださいね。437 ページの一番最後で、当年度未処理欠損金がマイナス5,235 万円ってなっていて、これは令和7年3月31日までなんですけど、令和6年度は、要するに赤字になるというふうに解釈してよろしいんでしょうか。

○委員長（田中博晃君）水道経営室長。

○水道経営室長（寺田嘉文君）おっしゃっております。

○委員長（田中博晃君）阪本委員。

○委員（阪本久代君）ちょっと今日持ってくるの忘れたんですけど、令和6年度の中には何か資料が出てまして、その資料の中で、令和9年度をめどに料金改定も、検討が必要とかってというのが書いてあったんです。なおかつ、その資料では、令和6年度は、このマイナスじゃなくてプラスになってたので、要するに令和6年度に建てた計画よりも、ちょっと赤字になる頻度が頻度とか用スペースが早いってということなのかなあとと思うんですけど、その辺の見通しってというのはどうなっどうなりますでしょうか。

○委員長（田中博晃君）水道経営室長。

○水道経営室長（寺田嘉文君）令和6年度ポンプ修繕緊急のポンプ修繕ございまして、こういう金額になってません。補正で修繕してございます。

○委員長（田中博晃君）上下水道部長。

○上下水道部長（堤 健君）すみません。おっきなところの工事っていうのは本来四条予算というところに入っていくんですけども、昨年度ですね昨年度しか今年の頭です。導水ポンプの修繕をさせていただくと、また止まってしまったっていうような話があったんでここで費用をかさみまして、今年度は赤字の見込みやという流れになってます。ただ、これはもう単年的なところなんです、以前にですね、令和10年頃を目処に料金改定のことを検討していかんあかんというところについては、今のところは予定しておりません。ただし、当然その人件費が高騰したりとかですねものが高まったり、そして老朽化も進む中では、また変動もあろうかとは思っております。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。（「なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（田中博晃君）いけますか。

質疑がありませんので、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論する方ありませんか。

阪本委員。

○委員（阪本久代君）令和7年度橋本市水道事業会計予算に反対の立場で討論を行います。

水道料金が橋本市がどのぐらいの、全国でどのぐらいのランクになるのかと調べてみたんですけども、ちょっとそれは出てこなかったんですが、20立方メートルで橋本市の場合、3,960円です。水道料金は、全国、これ、多分そのねいつもっていうのも書いてなかったんですけど2022年の多分データだと思うんですが。全国平均が3,141円、和歌山県の平均が2,745円。これと比べたらやっぱり橋本市の水道料金で高いんです。近隣と比べても、高いって言うところ辺で、いろいろ水道代だけじゃなくて、いろんなものが、物価高騰で、出の中で、この市民の生活を、水道料金も含めて、もう、圧迫しているっていうところで、先ほど、値上げの予定はないということ聞いたんで、それは安心したんですけども。市民の生活を圧迫しているという点で反対をいたします。

○委員長（田中博晃君）次に賛成の立場で討論する方ありませんか。

板橋委員。

○委員（板橋真弓君）令和7年度橋本市水道事業会計予算について賛成の立場から討論いたします。

本市の現状は、皆さまご承知のとおり、過去の人口増を目指した事業拡大のため、人口減少となった現在、大滝ダムの水利権等の負担が大きいのしかかり、加えて給水人口の減少と節水意識の向上で、有収水量の減少、また、老朽化した設備の更新や維持管理に必要となる経費の増大が今後ますます見込まれるなど、課題は山積です。橋本市の水は高いと、先ほども言われてましたけれども、全国的に水道管の維持管理等の課題に対し、値上げに踏み切っている自治体も増えてきています。水道管の老朽化対策については、本市は早くからこの問題に対し、正面から取り組み、対策として、受益者負担ということで、市民の皆さまの負担に考慮しつつ、段階を追って、水道料金の値上げにも踏み切ったことは、評価に値すると思います。今後、水道料金の値

上げもやむを得ない状況もありうるかもしれませんが、道路の陥没事故などで市民の皆さまが困ることのないように、市民のライフラインである安心安全な水を提供し続けるために、水道管からの漏水や破損による事故を防ぐための点検等はもちろんのこと。市民の生活を生命を守るため、日頃より、使命感を持ってお仕事をしていただいております。職員の皆さまには本当に感謝申し上げます。

令和7年度予算も、経営の効率化を図り、先を見据えた事業計画のもと、作成されていると思います。よって、本予算に賛成いたします。

以上です。

○委員長（田中博晃君）ほかに討論する方ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（田中博晃君）討論がありませんので、討論を終結いたします。

これより、議案第17号 令和7年度橋本市水道事業会計予算について を採決いたします。

本案は、原案のとおり可決すべきものと決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○委員長（田中博晃君）起立多数であります。

よって議案第17号は、原案のとおり可決すべきものと決しました。

3 議案第18号 令和7年度橋本市下水道事業会計予算について

○委員長（田中博晃君）次に、議案第18号 令和7年度橋本市下水道事業会計予算について を議題といたします。

これより質疑を行います。全般について行います。質疑ありませんか。

阪本委員。

○委員（阪本久代君）497ページの下水道使用料が、前年度と比べて343万1,000円ですけど減額になってるんです。下水道も

接続しているところは何軒か増えてると思うんですけども、この減額の理由を教えてください。

○委員長（田中博晃君）水道経営室長。

○水道経営室長（寺田嘉文君）下水道につきましても、同じように減っているというのが原因でございます。

○委員長（田中博晃君）上下水道部長。

○上下水道部長（堤 健君）議員おたのしのように核家族化が進んで、戸数が増えたりとかっていう傾向はあるんですけども。やはり人口減少と、節水意識の向上の中で、水道の使用量が減ってきておりますので、それに引っ張られるような形でですね、同じく下水道の料金も減ってきてるというような流れでございます。

○委員長（田中博晃君）暫時休憩いたします。

（午前11時02分休憩）

（午前11時04分再開）

○委員長（田中博晃君）再開いたします。

水道経営室長。

○水道経営室長（寺田嘉文君）申し訳ございません。486ページ、下水道事業の間違いでございます。訂正させていただきます。

皆さま、よろしくお願いいたします。

○委員長（田中博晃君）ほかに質疑ありませんか。

阪本委員。

○委員（阪本久代君）514ページの工事請負費なんですけれども、資料をいただいて、公共下水道雨水整備事業ということであるんですけど、これと金額合わしたらうまいこと合わなくて、この辺の説明をお願いします。

○委員長（田中博晃君）下水道課長。

○下水道課長（辰巳谷昭範君）お答えいたします。

公共、下水導水工事費内訳でよろしいでしょうか。2億1,586万9,000円分、この分でよろしいですか。

この分の内訳ですが、まず未普及工事といたしまして未普及工事としていたしまして、1,850万飛び3,000円。

それと広域化、上中下中の農業集落排水を公共下水道へ接続する事業が令和7年度から開始になります。この部分で、1億4,136万2000円。あとはストックマネジメント計画、これに基づく、環境や人口及び蓋の改修等々で、5,600、飛び飛び4,000円、合計いたしまして2億1,586万9,000円となります。

○委員長（田中博晃君）阪本委員。

○委員（阪本久代君）すみません。ちょっと、ごめんなさい。未普及のもう一回数字言ってもらえますか。

○委員長（田中博晃君）下水道課長。

○下水道課長（辰巳谷昭範君）未普及のところですが、この部分で1,850万飛び3,000円になります。

○委員長（田中博晃君）阪本委員。

○委員（阪本久代君）わかりました。その未普及の分が書いてないから金額が合わなかったちゅうことですね。わかりました。

○委員長（田中博晃君）ほかありませんか。
（「なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（田中博晃君）質疑がありませんので、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。討論する方ありませんか。

（「なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（田中博晃君）討論がありませんので、討論を終結いたします。

これより、議案第18号 令和7年度橋本市下水道事業会計予算について を採決いたします。

本案は原案のとおり可決すべきものと決することにご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（田中博晃君）ご異議がありませんので、本案は原案のとおり可決すべきものと決しました。

以上で、本委員会に付託された案件の審査は終わりました。

なお、委員長報告の作成については、私と副委員長に一任願いたいと思います。

これに、ご異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり。）

○委員長（田中博晃君）ご異議がありませんので、私と副委員長において作成いたします。

これをもって、令和7年度予算審査特別委員会を散会いたします。お疲れさまでした。

（午前11時07分 散会）